

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【第二東中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全国学力・学習状況調査においては、学力向上目標に対して一定の成果がみられた。しかし、さいたま市学習状況調査においては、目標達成ができなかったため、スタディサプリ等を活用した、基礎・基本の定着や、個に応じた学習が行えるようにしていく。
思考・判断・表現	学校生活において、自分の考えを表現することに課題がみられた。総合的な学習の時間等で積極的にICT機器を活用した情報共有や発表場面を取り入れたり、プレゼン資料の作成したり、基礎的なスキルを指導する。そのために、教員間でのICT機器の活用方法、実践事例の共有を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	教科によって、「勉強は好きですか。」「授業の内容はよくわかりますか。」の肯定的な回答に大きな差があった。基礎・基本の定着を図り「わかる」という実感の伴った授業を実現するために、ICT機器を効果的な場面で適切に活用できるように、指導方法の工夫改善を図り、研修等をしていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」などのICTを活用し、基礎基本の反復・習熟を行い学力の定着をはかる。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ 「ミライシード」や「Teams」などのICTを活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有を図る。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 生徒とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に自己の振り返りができる時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	自校テストにおいて、漢字や計算の習得については、おおよそ目標を達成できた。特に中1・2の国語の「書くこと」において前年度の数値を上回ることができた。しかし、各教科において知識・技能の項目で1ptの向上は達成できなかった。	B
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査においては、すべての教科・項目において全国の平均を上回る結果となった。平均して目標とした数値を超えることができたが、さいたま市学習状況調査においては、目標の1pt向上は達成できなかった。	B
主体的に学習に取り組む態度	教科によって、「勉強は好きですか。」「授業の内容はよくわかりますか。」の肯定的な回答に大きな差があった。しかし「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目においては、90%を超える肯定的な回答がみられた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	全教科で知識・技能の項目で全国平均の値を上回った。文章やデータを読み取って解答する問題において多く無回答がみられる。
思考・判断・表現	全教科で思考・判断・表現の項目で全国平均の値を上回った。国語、英語ともに書くことは特に数値が高いが、読むことの数値が低くなっている。前年度から読むことの項目で課題がみられる。
主体的に学習に取り組む態度	国語の勉強は好きですか、数学の勉強は好きですかの項目で、肯定的な回答が全国を上回った。英語はわずかに下回ったが、英語の勉強は大切だと思いますかの項目は全国を上回っている。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値となります。	
中1	さいたま市の平均点と比較して、大きな差が出ている。特に数学における「知識・技能」と「テータの活用」と理科における「思考・判断・表現」に課題がみられた。また「勉強は好きですか。」の項目にも教科による差がみられた。充実した学校生活が学力に繋がるようにしたい。
中2	さいたま市の平均点と比較して、大きな差が出ている。その中で、社会において、「歴史との対話」の領域で大きな課題がみられた。各教科における「勉強は好きですか。」の項目でさいたま市の平均値を大きく下回った。
中3	さいたま市の平均点と比較して、差が出ている。各教科における「勉強は好きですか。」の項目ではさいたま市の平均値を上回ることが多かったが、教科による差が大きく見られた。また、学年が上がるにつれて計画的にたてた家庭学習を進められるようになっていく。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	読むことの項目で国語・英語ともに課題がみられたため、方策を追加し、R4年度の平均正答率と比較し、1ptの向上を目指す。	⇒ ICTの活用だけでなく、朝読書の時間など、文章を読む時間を充実させる。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし